

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	16	課題区分	C	令和6年3月29日	
横断的な課題	木曽らしさを活かした観光振興						
地域重点政策	木曽らしさを活かした観光振興					木曽地域振興局	
実施機関	木曽地域振興局			担当課	所属	総務管理・環境課	
事業名	御嶽山火山マイスターの育成・支援				電話	0264-25-2213	
					E-mail	kisochoi-kenmin@pref.nagano.lg.jp	
事業	目的 (目指す姿)	昨年度のビジターセンターの開館により、活動フィールドが拡大し、発展途上にある御嶽山火山マイスターのさらなるスキルアップを図り、御嶽山の魅力を内外に発信するとともに、来訪者の火山防災意識の向上につなげる。					
	現状と課題	<p>■令和4年度にやまテラス、さとテラスの2つのビジターセンターがオープンし、御嶽山火山マイスターの有効な活動拠点としても魅力あるものに定着化しつつある。また今年度は、山頂までの規制が緩和され、登山者は昨年度の7倍に上るほどとなった。</p> <p>一方で、御嶽山火山マイスターたちの活動は、創世期、つまりまだまだ発展途上であり、活動フィールド、火山に対する知識、ガイド力などに、いわゆる「伸びしろ」はたくさんあるはずだが、23名のマイスターそれぞれの知識等のレベルに差があるなど手探りを続けている状態ともいえる。</p> <p>■58名の死者及び5名の行方不明者を出し、戦後最大の火山災害となった2014年9月27日の御嶽山噴火災害の教訓は、決して風化させることなく、町村、県、関係団体等及び御嶽山火山マイスターたちが協力しながら、さらに対策の充実化を図り、あらゆるツールを使って後世に残してゆく必要があるが、ヘルメットの着用など登山者の防災意識をどう継続させていくかが課題となっている。</p>					
概要	内容 (変更後の内容)	<p>現代の御嶽山周辺に暮らす私たちは、御嶽山の水蒸気噴火には遭遇しているものの、マグマ噴火については未知の現象であり、勃発すれば想像を絶する被害が想定される。</p> <p>マグマ噴火を近年に経験した地域の対策、活動状況は、直近の実体験に基づく活かしたお手本であり、この先可能性はゼロとは言えない御嶽山のマグマ噴火による被害を未然に防ぐための方策等を下記①の地域から、また類似施設といえるビジターセンターを有する先進地の状況等を下記②の地域から学ぶことにより、御嶽山火山マイスターたちのスキルアップを図る。</p> <p>●実施日：令和6年2月23日～25日(3日間)</p> <p>●参加予定者：御嶽山火山マイスター 6人 県民生活係職員 1人</p> <p>●視察対象地域 ①雲仙天草国立公園地域 (雲仙岳災害記念館(がまだすドーム)等)</p> <p><視察見学内容> ・実際の災害をどう伝えているか ・運営の主体、フィールドワークの主体、運営上の問題点等 ・毎年のイベントの企画運営方法 ・ジュニアマイスターの育成状況等 ・教員のための「がまだすドームの日」の効果等 ・国立公園としての運営、保護活動等</p> <p>●視察対象地域 ②阿蘇くじゅう国立公園地域 (ユネスコジオパーク、火山博物館、ビジターセンター等)</p> <p><視察見学内容> ・阿蘇山を火山としてどう伝えているか ・国立公園として、ユネスコジオパークとしての運営、保護活動等 ・毎年のイベントの企画運営方法 ・運営上の問題点等</p> <p style="text-align: right;">※ 行程表：別紙参照</p> <p>●視察報告会の実施 ・毎月開催している「御嶽山火山マイスター総務委員会」及び3月に開催した「御嶽山火山マイスター総会」において、参加したマイスターから報告する。 (メンバー：危機管理部、木曽地域振興局、木曽町、王滝村、大学等研究機関ほか、御嶽山関係者)</p>					
		事業期間	2024年2月1日		～	2024年3月31日	
事業費等	(単位：円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	火山地域視察研修	火山防災関係施設等の視察・情報交換	825,400	飛行機運賃、レンタカー代、宿泊費、施設入館料等 (詳細は別紙のとおり)			
	合計		825,400				
標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	御嶽山火山マイスター参加者数		8人	7人(75%)	○ 達成 ● 一部達成 ○ 未達成		
	視察研修報告会実施回数		1回以上	1回(100%)			
事業実績・成果	<p>・直前になって、都合により参加者が1名減となってしまったが、新人マイスターら全員が熱心に視察し、短期間で効率よく、代表的な火山帯地域を2エリア見聞できた。</p> <p>・過去の大きな噴火災害を乗り越え、そこにしっかり生きるために被害の最小化という課題と戦い、かつ火山の恩恵を受ける工夫といった逞しさや集客の考え方をしっかり学べた。</p> <p>・タイプの違う火山地域ではあるが、2地域とも御嶽山と同様に過去に大地震に見舞われている。それもすっかり火山防災と併せてうまく発信し啓発することができており、特にそこはマイスターたちの情熱に響いた。</p>						
今後の方向性	<p>・参加者全員が、しっかり見聞きしてレポートを提出済みである。さらに現在、収録した音声を活字化している最中で、保存版記録として残し、マイスター全員のための研修資料とする予定である。</p> <p>・今後もマイスターの活動状況の把握に努め、知識及びガイド力の更なる向上を図るための支援の在り方について、必要性も含めて検討していく。</p>						